

これからの農業経営を考えるマーケティング情報誌「アグリカルチュラル・マーケティングニュース」

AGRI

cultural Marketing News 2018 SPRING

今回は
いちごの
商品開発だね!



農業にマーケティングを活用しよう!

商品開発の成功のヒントは?
お客様が抱えている
問題を解決しよう。

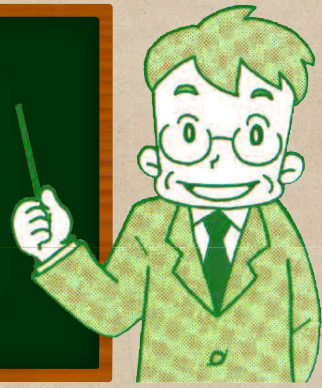


チャレンジする農業をレポート!
ブランドいちごの
連携商品開発

主婦100人に聞きました!
最近、野菜不足を
感じていますか?

農業にマーケティングを活用しよう！！

商品開発、何から始めたらいいの？



商品開発

5つのステップ

新商品のアイデアは、急に頭をひねって考えられるものではありません。まずはヒントを探るところから始まり、左記のような流れで進めていきます。具体的な進め方について漫画でわかりやすくお伝えします。

ニーズを見つける

コンセプトをつくる

戦略を立てる
(誰に?いくらで?どこで?)

試作する

ネーミング&パッケージ

完成!

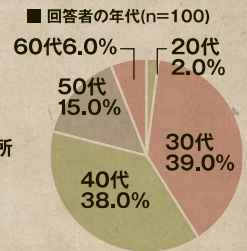


消費者が
気になるポイントを
知ろう!

主婦100人に聞きました!

野菜不足を感じていますか? その対策法は?

■ アンケート対象
静岡県内在住
主婦100名
■ 実施日
2018年4月
■ 実施機関
(株)販売促進研究所



静岡県の主婦のみなさんは、普段野菜を十分に摂れていると感じているのでしょうか?

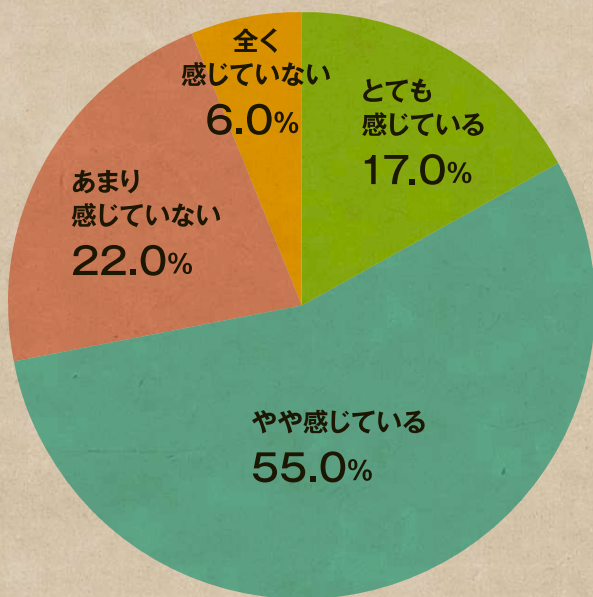
アンケートによると、**自身や家族に野菜不足を感じている人は7割以上で、**足りていないと思っている人が多いようです。

野菜不足への対策としては、**野菜の多いおかずやサラダなど、**

日々の食事の中で意識して摂るようにする人が多いです。

DATA.1

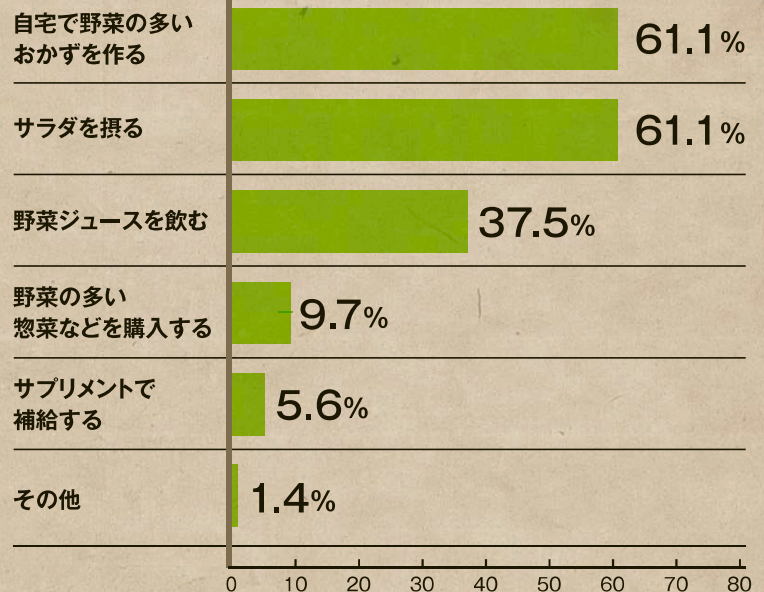
最近、ご自身やご家族に
野菜不足を感じていますか?



DATA.2

不足を感じる時、どんな対策をしていますか?

(不足を感じると答えた方72名に質問/2つまで選択)



① 野菜不足を感じる=もっと野菜を摂りたい人が多い。

野菜不足について、とても感じている人と、やや感じている人を合わせると7割以上!自身や家族にもっと野菜を摂る機会を増やしたいというニーズがあるということが言えるでしょう。

② 日々の食事で野菜を摂りやすくなる商品の開発が必要!?

DATA2を見ると野菜不足対策としては、野菜の多いおかずを作る、サラダを摂るといった、自宅での日々の食事で野菜を増やしたいということがわかります。しかし働く女性も増えて忙しい今の時代、調理の手間を省ける野菜の商品が求められているかもしれません。



チャレンジする農業をレポート!

新しいことに取り組んでいる事例をご紹介します。

食品メーカーとの

連携による商品開発

静岡いちご

「きらび香」

静岡発の新たないちごブランド「きらび香」。あきひめ、紅ほっぺに続く新しいブランドとして数年前から開発され、生産・販売が始まっています。パランスのとれた酸味と糖度、そしてキラキラとした宝石のような美しい見た目が特長で、主にケーキや生食用として販売され、好評を得ています。今回は、この「きらび香」と静岡の人気パン「のっぽパン」のコラボレーションについてご紹介します。

お話を伺った
JA静岡経済連の中野さん



「きらび香」として消費者との接点が増えました。



新しい素材を探す
メーカーさんと連携

Q のっぽパンとはどのような経緯でコラボしたのですか？

A のっぽパンを製造するパンデロールさんが、サンドする新しい素材として県内農産物を探しており、静岡県信連がきらび香をパンデロールさんに紹介したことをきっかけにコラボレーションすることになりました。きらび香を使用したためらかなクリームをパンにサンドし、静岡ならではのきらび香いちごの「のっぽ」が完成しました。パッケージにはきらび香のロゴ、JAのマーク、静岡県いちご協議会の表記が入っています。

「きらび香」は将来的な海外展開なども見据え、商標登録をしてロゴマークも制作しています。JA静岡経済連に所属する静岡県いちご協議会で管理しています。

価値を上げるためのブランドの管理

Q のっぽパンの開発で力を入れた点は何ですか？

A きらび香というブランドとして、質の高い味を出すことには気を遣いました。いちご本来の味がしっかりと分かるものになったと思います。実際には二次加工メーカーさんでイチゴをフリージングの状態にしてからパンデロールさんに販売。加工メーカーさんと組むことで、二次加工メーカーさんが使いやすい形に提供することができました。

期間限定の販売で
10万本以上のヒット商品に

Q 連携商品の反応はいかがでしたか？

A 「きらび香」この「のっぽ」は、期間限定で1月の半ばに販売開始、3月半ばには売り切れて終了となりました。10万本以上の販売となったと聞いています。富士宮の「フアーマースマーケット」や「うぐすな」でも1日で約1000本売れ、相乗効果で青果のいちごも売れたようです。



生鮮品以外の消費者との接点
モチベーションにもつながる

Q きらび香としてはどんな効果がありましたか？

A まだ生まれて間もないブランドですが、地元で人気のある「のっぽパン」として多くの人の接点を持えました。「見たよ」「買ったよ」という声も多くいただき、認知が向上したと感じます。生産者さんにとっても、通常は加工用素材になると自分の農作物がどのように消費者に届いたのかわかりにくいものが多い中で、今回の取り組みでは見える化ができたと思います。また、生食のいちごの販路はスーパーやデパートがメインですが、「のっぽパン」として駅やサピスエリアなどお土産の販路にも置かれることになりました。農産物ブランドとそれを使った商品の双方にメリットのある今回のような連携は、今後取り組んでいきたいと思っています。

ポイント	加工メーカーとの連携で 認知や販路が拡大。	ブランドのコラボレーションが 相乗効果を生んでいる。	連携する際は、 ブランドの管理も重要。
-------------	--------------------------	-------------------------------	------------------------

JAバンク静岡からのお知らせ 《JAバンク静岡が農業者を応援します!》

農業資金はJAにご相談ください!
「JAバンク静岡保証料助成」「JAバンク利子補給」
 JAで「農業近代化資金」や「JAアグリマイティー資金」を借入の場合、今なら保証料をJAバンク静岡が全額助成します。また、最大1%の利子補給も実施中。

【JAアグリマイティー資金】 農業経営に必要なさまざまな資金を強力にサポートする資金です。

- 借入金額/最大3億円 ● 借入期間/最大20年
- 使いみち/農業に関する設備資金・運転資金、他行からの借換え、農地上の太陽光設備資金 等

※借入金額・借入期間は使いみちにより異なります。
 ※借入の際は静岡県農業信用基金協会保証をご利用いただけます。

がんばるあなたを応援します!
「親元就農支援事業」
 親元で農業を学んでいる方々の知識・技術の習得費用を最大20万円まで助成します。たとえば研修や視察の費用、就農に必要な資格取得費用などなど、お気軽にご相談下さい。

- 対象者/県内で就農している18~44歳の方で、3親等以内の方のもので農業を学ぶ、就農5年以内の方
- 申込期間/平成30年5月~7月末日

※詳しい内容についてはお近くのJAまで!

発行:静岡県信連 農業部

〒422-8621 静岡市駿河区曲金3丁目8番1号 [電話]054-284-9528 <http://www.jabank-shizuoka.gr.jp/shinren/>